



交流ネットの一年をとおして

2023年度会長 佐野 裕香子 (Fem.'9)



今年度、交流ネットの会長をさせて頂くにあたり、とても負担に思いました。責任を取りたくない自分自身の問題もありましたが、誰もが自分らしく生きられる世の中を私が本当に望んでいるのだろうか疑問に思うところがあったからです。国際女性デーの新聞記事に書かれていたような、私が我慢すれば、家のことはやはり私がやらなければという、日本人に根強く残る意識にしばられ、不満を持ちつつも声を上げられない人が私なのです。幼い頃から頭の中はモヤモヤしていて、私は一体何がしたいんだろう、何をしたら楽しいんだろう、今も答えは出ていません。

今年度のサブテーマである「～べき論はやめやー」とするにあたり、各々が～すべきで苦しんでいること、～すべきのこだわりがなくなりつつも、世代では随分違いがあること、若い世代には生きやすい社会であって欲しいことが共通の皆の思いであることがわかりました。また、男女共同参画を話し合うなら男性も一緒に…という意見もありました。

結婚に魅力や憧れを感じない20代がまあまあいる現実、政府の少子化対策との視点の違いを実感します。

子育てに潜む”べき”をさぐるためアンケートをとりました。

- ① 子供をもってよかったこと
- ② 子供をもって大変なこと
- ③ 父親が一番パワーを発揮する時は…
- ④ 子育て中、やりにくいなぁと思う社会環境は？
- ⑤ 将来望む社会にするため子供たちに残したいこと

また、学習会で子育て中のご夫婦に来て頂き、お話を聞きました。アンケート結果、学習会、その後の議論をまとめ、ウィルフェスタで展示しました。私たちの活動は微々たるものではありますが、展示という形になり、私たちは、よりよい社会になるために働いていると喜びになりました。



今年度のセミナーは東海テレビのニュースで淑徳大学のジェンダー・ダイバーシティ表現演習「自分のための辞書を編む」を知り、テーマに通じるのではないかとお願いしました。反橋一憲先生と演者でもある学生2名の方に来て頂き、演習のDVDの視聴と先生の講演、学生の方の話しを聞きました。現役学生の方から生で話しを聞くことは殆どないので、本当に新鮮で、この若い人たちのために、生きやすい社会にしていきたいと力をもらいました(参加人数が少なかったことが残念です)。

しかし、老害になってはいけない、そのことは肝に銘じたいです。

この一年、交流ネットの皆さんと悩み、議論し、無事終わらせて頂きました。ありがとうございました。

近頃思うこと

「あいち国際女性映画祭」を盛り上げたい！

公益財団法人あいち男女共同参画財団
理事長 平田 誠

あいち男女共同参画財団理事長の平田と申します。ウィルあいち交流ネットの皆様には日ごろから大変お世話になりありがとうございます。



当財団に赴任して1年9か月、交流ネットの皆様を始め多くの方からご指導いただいている最中ですが、自分の未熟さに気づかされることも多々あり、最近の体験を通して考えたことをご紹介しますと思います。

昨年末、簡単な手術のため短期間入院したのですが、4人部屋の同室者のうち認知症も患っていらっしゃる高齢男性が、ナースコールの存在が理解できず、昼夜関わらず、「おーいお茶」と怒鳴るのです。薬のせいかわ喉が渇くため、回数も多く看護師さんも大変。我々同室者も夜は睡眠不足気味になってしまいました。

「おーいお茶」と言う人が未だに存在するのか！と驚いたと同時に、日頃から家庭内でもそのように振舞っておられるのかなと想像してしまいました。私自身は、今はもちろん過去も妻に対し「おーいお茶」と言ったことはありませんが、夫が妻に、上司が部下にというイメージが未だに自分の中にあるんだと感じました。

商品名とした某飲料メーカーのCMも最近是有名な俳優さん(女性)が広大な茶畑の中で「おーいお茶」と叫ぶ爽やかな内容になっています。過去には商品名をめぐる男尊女卑ではないかとの論争もあったようですが、現在では見事にイメージチェンジされております。周りの若い人にも尋ねてみたのですが、男尊女卑のイメージはありませんでした。

年代によってイメージの捉え方に相違があるようです。乱暴な区分ですが、男尊女卑的な考えが残る高齢者、男尊女卑のイメージが残っているが知識としていけないと認識している中高年、イメージがない若者。若い方ほどジェンダー平等に関して正しい感覚を持っているということです。これも皆様を始め多くの諸先輩の地道な努力と若年者への教育の賜物だと思います。10年後にはもっと進んでいるでしょう。しかしながら、未来が明るいと安心してはいられません。ご存じのように世界はもっと速いスピードで改善されており、わが国はそのスピードに取り残されているのですから。



あいち国際女性映画祭 2023 合同記者会見

スピードをあげるためには、特に、社会の様々な活動の意思決定の権限を持っている人々の意識向上が不可欠だと思います。残念ながら現段階では、その権限を持つ人は中高年以上の男性が多数を占めています。当財団が行っている各種セミナーにもそのような方々を対象にしたものがありますが、参加者が限られているのが現状です。

そんな中、当財団が主催している「あいち国際女性映画祭」はわが国唯一の国際女性映画祭で、映画という身近な素材を通して、男女共

同参画や女性活躍を始め性の多様性や多様な生き方について問題提起し、観客の皆様とともに考えていくことを目的とするものです。セミナーの参加はハードルが高いかもしれませんが、映画鑑賞は楽しみながら考え

ていただけます。私より年下の男性も参加しやすい意義のあるイベントだと思います。今年の映画祭は9月5日(木)から8日(日)にウィルあいちと名古屋駅前のミッドランドスクエアシネマで開催する予定です。先ほど述べた人々はもちろん、多数の方に参加していただけるよう盛り上げてまいります。



国内外の監督、俳優さん

ジェンダー平等は女性だけの問題ではありません。今後も連携し、協力しながら性別、年代等を越えたあらゆる方々に共感していただけるよう共に頑張ってみましょう。よろしくお願い申し上げます。



2023年度 ウィルあいち交流ネットセミナー報告

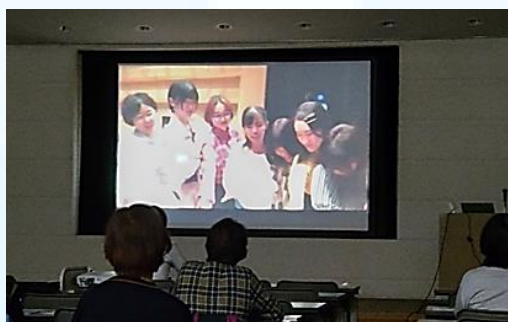
金森 淑英 (バリーズ18)

今年度の交流ネットの年間テーマ“共に生きていくために～「べき論はやめやー」”はある若い会員の一言から生まれました。“どうして結婚しないといけないんですか？私には自立して生活できるスキルも経済力もあります。依存されるような生活はごめんです。” 少子化対策について話をしていた時の一コマです。まずは、若い方が子どもを持ちたいと思う環境を作れるように、では私たちには何ができるのか。・・・などなど発言が続く中でした。『そこ!!』正直びっくりでした。そして気づいたのです。私たちが多くの『～するべき』『こうあるべき』に囲まれていることに。しかし、私たちの世代と子育て世代、しいてはもっと若い世代とは感じている「べき」も違うはずです。アンケート、学習会、展示発表を経てたどりついたのが今回のセミナー企画でした。

愛知淑徳大学における『ジェンダー・ダイバーシティ表現演習』から生まれた演劇作品『自分のための辞書を編む』。これをみんなで見て、指導をされた中のおひとり反橋先生にお話をきき、実際にこの授業を受けた学生さんの話が聞きたいということになり、実現したのです。この授業の目的は副題にもあるとおり、“ジェンダーについて理解を深め、思索。そして私をアップデートする～”こと。

当日は簡単に先生の授業やこの作品の成り立ち・バックグラウンドをお聞きしました。

- ・ジェンダー・ダイバーシティについて考えるヒントとなる報道や作品を探し共有すること。
- ・「あなたの、性別は何ですか？それはどんな時に意識しますか？」と周りの人に問いかけ理由も聞く。
- ・生まれてから現在までの性別にまつわる記憶をたどる。



これらをもとに何度も話し合いを重ね 12 の小品に。ここに盛り込まれる主なテーマを下の 4 つにしました。

- ① 装い(男らしさ・女らしさ)
- ② 性的な存在であること(性教育・パパ活)
- ③ 結婚と恋愛
- ④ 大人からの期待と圧力(とくに親・教師)

先生はさらっと話されましたがここまでの時間が濃密なものであり、学生さん一人ひとりが強く感じるものがたくさんあって、

自分の奥底に眠っていた感情や思いが形になっていったことがDVDの上映を通して伝わってきました。

ちょっと音が聞きにくいところがあって残念でしたが、「普通って何？」と何度も劇中で問いかけられ、若い世代の思い、感性、社会の変化の中で戸惑いつつもしっかりと生きていることを実感できました。

きっかけであった「結婚」「子どもを持つこと」に関して、

- 結婚とはこれから先のことを自分一人で決められなくなること、
- 「子どもを持たない選択」を頭ごなしに否定しないで。「子どもを産むのが絶対」というキャリア・人生計画は考えられない。という考え方・思いを受け取ると共に、どうしたらよりよい社会になっていくのか。今、抱

えている問題解決の糸口にたどりつけるのか。私には何ができるのか。課題もいただきました。

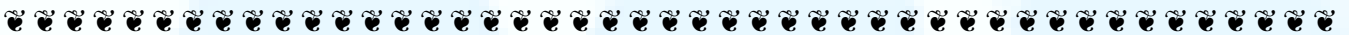
学生さんとのお話はさらに濃い時間となりました。この授業の選択理由等をお聞きしたのですが、来てくださったお二人ともが“私はマイノリティだと自認しています”とした上でお話しくださったこと。

○LGBTqなど細分化することはよいことなのか。その人たちに不要な圧力がかかっているか。押しつけになっていないか。

○『普通(今までの考え方、夫婦のあり方、子どもについて)』が拒絶され過ぎていないか。多様性の中に『普通』も入っているはず。バランスが大切。

○その人を属性ではなく、その人として尊重することをみんな身に付けてほしい。ただ受け止めること。理解できなくても『その人を受け止められる社会』になってほしい。

知ること・学ぶことから自分を常にアップデートすること、受け止めることから『べき論』にとらわれない社会の一步が始まると認識できた時間でした。



〔2023 年度 愛知県男女共同参画人材育成センター修了式〕

森田 登喜子(ウィル 2000)

3月6日また新しいお仲間ができる期待に胸を弾ませ、交流ネット取材班は人材育成セミナーの修了式を取材するために、ウィルあいちに行きました。式では、修了証書授与に先立ち、4班23名の皆さまが、1年間の特別努力の結晶を発表されました。

第1班 女性の中に潜むアンコンシャス・バイアス

第2班 刑法改正はいかに進んできたか～女性に対する性暴力と人権～

第3班 目指せ！子育てしやすい社会

～今よりも子育てしやすい社会を目指して～

第4班 止まらない少子化～若い世代の家族間から考える少子化問題のいま～



手をつなぐ声、声！

いずれも「今」の問題を見据えたテーマで、グループで協力して真剣に研究をして、素晴らしい成果が上っていました。また、部屋を取り巻き「年齢を問わず、自分の受けたいろいろなハラスメントについて語る女性たちのメッセージ」が張られておりました。1枚1枚じっくり読めなかったのが残念でした。

惜別 赤松良子さんの思い出

長年女性の人権や活躍促進のために尽力されました赤松さんが、本年2月6日急逝されました。赤松さんには、2004年10月に当交流ネットセミナーで講演をしていただきました。午後1番の予定なら前日に行きますと言われ、アイリス名古屋に宿泊されました。良い機会と、交流ネットと財団全体から人が集まり、大きな夕食会になりました。財団理事長、専務理事の挨拶がありました。講演の内容は、生い立ち、雇用機会均等法制定の苦労と問題、国連での活動など豊富でした。その日の朝のニュースを話題にされ、「戦争をしたい人たちがいる」と強い口調で言われたことが忘れられません。ご冥福を祈ります。

森田 登喜子(ウィル2000)

ウィルあいち交流ネットは、2001年ウィルあいちセミナー等の修了生の自主活動グループが結成

さわらび会 / メンズリブ名古屋 / 女性学 '98 の会 / グループキーツ / ウィル 2000 / I.W.L / ウィル Do2002 / サーティネット '05 / ベリーズ 18 / Step07 / Fem.'09 / Amelie '10 / ひかるよ '15 / そだね！ 2017 / Hey Say Final / Reiwa'19 / みつ 2020 / リモート 2021 / Women's cup'22

2024年3月発行

編集発行:ウィルあいち交流ネット 協力:(公益財団法人 あいち男女共同参画財団)